

# 平成 29 年度学校評価 自己評価書

2018 (平成 30 年) 3 月  
学校法人高橋学園  
千葉学芸高等学校

## 1. 学校教育目標

### 〈1〉 建学の精神と教育目標

建学の精神 「 創 造 」	
教育目標	1. 心の創造 強い精神力と思いやりの心 2. 智の創造 知性と判断力 3. 美の創造 感性と技芸

#### 建学の精神

建学の精神は私立学校にとってその教育の最も根幹となる目標を示すものであり、すべての教育活動を建学の精神に位置づけて行われる。千葉学芸高等学校では、建学の精神「創造」のもと、美しい人類文化の創造にあたる実力を備えた人材の育成を図る教育活動を展開する。

#### 教育目標

教育目標は、建学の精神「創造」の具現化のため、心・智・美の観点から獲得を期待する知識技能能力の内容を示す。

心の創造においては、物事への集中や忍耐のできる強い意志を備えつつ、優しい思いやりも併せ持つ人間性の涵養を図る。

智の創造において、知性を磨き、知識を蓄積するのは正しい判断のできる理性を備えるためである。

美の創造においては、美しいものを美しいと感じ、それを言葉や身体で美しく表現できる能力や技能の獲得を図る。

### 〈2〉 教職員および生徒の行動目標

教育目標の実現のため教職員は、以下の信条のもとに教育活動にあたる。

#### 《職員の信条》

- (1) 建学の精神を生かし、日本人の特性と校風を高揚せん
- (2) 自己の誇りと責任を自覚し、全機能の発揮に当たらん
- (3) 親和・協力の心を基とし、内容の充実を求めん
- (4) 良き社会人たる素質を磨き、生徒の進路に万全を期せん

生徒は、以下の誓いのもとに学校生活の充実を期す。

《誓いの言葉》

- (1) よい伝統と、よい校風をつくります
- (2) はつらつとした若さで学力・技能を磨きます
- (3) 愛敬の心を生活に表します

また、以下の学年目標に沿って自己の研鑽・向上を図る。

1 学年の目標	《自学》 私たち1年生は、次の目標をしっかりと実行して進みます。 (1) 高校生としての礼法・言語・動作を立派に築きます (2) 友情・協同の精神を発揮します (3) 自信の持てるまで努力いたします
2 学年の目標	《充実》 私たち2年生は、学校の中心となり、充実した学年を築きます。 (1) 自分の将来の方針をたて、目標達成のために根強い努力をします (2) 愛校・友情の精神を一日の生活に表します (3) 自信の持てる力と人格を築きます
3 学年の目標	《独立》 私たち3年生は、自分の将来の方針をたて、最高学年として人格を磨き、よい社会人となります。 (1) 全校のよき指導者となります (2) 社会にたつ一切の準備をいたします (3) 自己の誇りと責任を自覚し、協力貢献を実践します

### 〈3〉年度目標

以上を踏まえて、平成29年度の目標を以下のように設定した。

平成29年度学校目標 『学びの再発見』

One Up（ワンナップ）は「ひとつひとつスコアアップを図ること」。

千葉学芸高校として18年目。本年度のスローガンは「学びの再発見」とした。

学ぶ、ということは、本来、まねぶ、つまり真似をすることと同じ語源の言葉。物まねをして楽しむということだけでなく、教えを受けて優れた技や知識を身につける。あの人のあのやり方は素晴らしいから自分も同じようにできるようになりたい、そういう気持ちから生まれた学びというものは、本来楽しいことである。学校の教科の勉強だけではなく、スポーツや芸術の技術などにも通じる。わかるようになる、できるようになる、ということの楽しさを再発見することを心がける。身の回りの様々な学びに、興味を持って取り組みたい。

2月1日に学園創立130周年を迎え、記念の年となった。一方、高校教育を取り巻く情勢は、年度末に発表される新しい学習指導要領での学びの変革や、大学入試の改革、高校生学びの基礎診断の導入など、大きな変化が予定されている。時代の区切りの時期にあたり、次の時代を見据えて残された時間で着実に準備にあたらなければならない。

タブレット端末の活用に関して、教職員に端末を配布し、授業での活用と、校務分野での活用を開始して3年目となる。ベネッセ社の学習支援システムClassiを全校生徒対象に本格運用を開始する。実力テスト（基礎学力テスト）と連動して、苦手単元のEラーニング動画教材を提示するなど、学習を支援するシステムを運用していく。

2007年にEラーニングを導入してから11年となるが、ギガビジョン社の教材は、主要5教科について基礎からセンター試験受験レベルまで単元ごとに学べるもので、中学校向けの教材もあるので弱点の補強にも役立つ。全国でも早くから取り組み実績をあげているが、新学習指導要領への移行を見据えて、次年度以降はベネッセの学習動画（2万本）を基本とする運用に変更する。本年度は併用期として、移行への準備を進める。2019年度に文部科学省が実施予定の高校生学びの基礎診断（基礎学力テスト）の実施に備えて、基礎学力の定着・充実のための学習支援の在り方についても研究を進める。

施設設備面では、第1・第2コンピュータ室の什器（机・椅子）の更新を行う。旧校舎時代からの机を撤去し、省スペース型で整備したパソコンにあわせたサイズで設計し、通路幅等を十分に確保できるようにする。

このほか、校舎西側に大型の倉庫（教具庫）の建築を行う。空き教室を少人数学習指導用に活用する一方で校内の教具（机、椅子、備品）の保管先が手狭となることが懸案であったが、必要なスペースを倉庫棟として新築することとした。永久保存文書等の在庫も増えて校内の耐火書庫も余裕がないことから、倉庫棟には耐火構造の文書保管庫も設置する設計としている。

また、人工芝グラウンドに隣接した体育教官室のトイレは倉庫に転用して長年封鎖してきたが、改修して、グラウンドでの活動の際の屋外トイレとして整備する。

上記目標に主眼をおきながら、人格形成・コミュニケーションの充実、学力向上・技能獲得向上・資格取得、進路開拓などを目指して教育学習活動にあたる。特に特性の伸長、人間性の育成、技能教育を重視し、色彩教育、情報教育、福祉教育、環境教育、国際教育などに関連する授業や学校行事、クラブ活動などの諸活動の展開・充実を期す。

## 2. 学校の概要

学校法人高橋学園 千葉学芸高等学校

〒283-0005 千葉県東金市田間 1999 番地

TEL 0475-52-1161

FAX 0475-52-1163

インターネット <http://www.cgh.ed.jp/>

電子メール [info@cgh.ed.jp](mailto:info@cgh.ed.jp)

平成 29 年度	学級数・生徒数	1 学年	4 学級	1 7 1 名
		2 学年	4 学級	1 6 4 名
		3 学年	4 学級	1 0 8 名
		全校	1 2 学級	4 4 3 名

学校の概要については、インターネットホームページで公表中。また、コースガイド、創立 130 周年記念誌等の冊子にて紹介している。

## 3. 各部門の活動内容・活動状況（学校要覧）

学校の特色、および以下の事項等については、平成 29 年度学校要覧（冊子全 74 頁、関係者向け 5 月刊行）に記載。

- ・ 学校施設・設備、校舎面積
- ・ 学校行事の内容
- ・ 生徒会活動の内容
- ・ クラブ活動の内容
- ・ 教職員の担当学年、担当教科、校務分掌、授業の持ち時間数、所持免許状の種類
- ・ 校内研修の内容
- ・ 学習指導（授業時数、時間割、総合的な学習の時間の内容）
- ・ 学籍・出欠席統計
- ・ 生徒指導上の諸問題及びそれに対する学校の対処や指導の状況
- ・ 進路の状況
- ・ 安全管理・保健管理（保健安全、防犯対策、防災対策）
- ・ 各部門の予算執行状況
- ・ 父母の会活動状況、地域との連携等の状況

## 4. 自己評価（平成29年度）

### A. 全般の評価

#### （1）評価

全般評価：良好

#### （2）課題と改善策

全般に関わる特に重要な課題として、生徒募集および学力の向上の2つを取り上げる。

次に、平成29年度のトピックとして、創立130周年記念事業を述べる。

#### 生徒募集状況の課題

平成29年度の新入学生徒数は前年+37名であり、平成28年度の対前年+43名に続いて増加した。近郊の中学卒業生数が減少する中で、近隣公立高校の学級減はなかったが、隣接学区匝瑳高校英語科募集停止という公立高校募集数の若干の変化があったこと、私学の定員割れが続き環境が悪化する中でも広報部を中心に生徒募集の努力をした結果であり、依然として募集定員の6割程度であるが、増加を図った努力の成果があった。印旛地区中学校長を経験した広報担当職員に加え、山武地区中学校長会長を広報部に迎え、若手広報人材も経験を積み熱心に活動した成果であると考えられる。千葉市などからの志願者入学者増が好材料となっている。

平成30年度の生徒募集では、公立学校の入学定員について、山武地区では中学校卒業生数の減少と、累積的な過剰枠（＝私学の未充足枠）に対応し本来は5学級程度の削減が必要であるのに、定員削減は1（東金高校）で、昨年に続き厳しい状況であったが、本校平成30年度入学者は前年+24名、14%増の195名（募集定員の70%）を得た。平成30年度入学生の生徒募集では、広報担当職員を公立中学校長経験者3名態勢に増員した効果もあり、依然厳しい状況下ながら増加を図ることができた。授業料減免制度や、公務員コース、福祉コース、芸能コース、ロボットをはじめとする情報化施設設備活用、ゴルフ部・野球部の強化などの取り組みが魅力を高め、館山・松戸などからも入学者を得たことが生徒増に貢献したと考えられる。

本校の在学生の教育向上・進路状況は良好であり、困難な生徒募集状況は近隣公立学校定員過剰・公私学費格差等の外部要因によるものが主であると考えられる。公立高校の募集人員増減により直接左右される状況は脱していく必要があり、受験生から選ばれるための魅力を一層高めていく必要がある。生徒募集の拡大のためには、内容の充実、広報・PRの工夫等の自己対処方策の充実発展により改善を図っており、授業料減免制度や奨学金制度の周知により私学を敬遠する意識の解消に努めている。その結果、新入生では約6割が授業料減免制度を利用するなど、周知効果は高まっており、公私学費格差を乗り越える状況が生まれつつある。

今後も、環境悪化にも耐える体質改善を図るとともに、一層の広報努力によって生徒獲得を展開しなければならない。中学校教員も世代交代しており、本校ならではの数々の優れた特質について、中学校現場で十分には知られていないことが懸念される。より丁寧でわかりやすい広報が必要であり、広報活動の質的量的改善も図っていく必要がある。

また、県教委による高等学校再編計画の動向を注視しながら、展望をもって取り組んでいきたい。

## 学力の向上

2009度から言語表現力の向上に取り組み、国語科および学年会による漢字学習指導、作文指導、全校漢字学力テストの複数実施、校内漢字検定を継続している。常用漢字の書き取りについて、個々の生徒の繰り返しの学習成果は着実に現れ、作文でもほとんど漢字が書けなかった生徒が、適切な漢字かな交じりで文章を書けるようになるなどの効果が生まれた。基礎学力を身に付けたことに自信を深めた生徒が他の学習に意欲的に取り組む姿もみられ、教師による学習の働きかけと継続的な指導が奏功している。校内文芸コンテストも第4回を迎え、年間を通じて授業課題などで提出された作文や文芸作品から選ばれた優秀作品も質的に向上をみた。

学力上位者については、朝夕の特別学習講座に加え、eラーニングビデオ教材を活用して特別進学に対応する学習に取り組み学力向上を図った。城西国際大学・東京理科大学・千葉工業大学・日本大学をはじめ多数の指定校推薦枠を得ているほか、難関私立大学や大学入試センター試験を経て国立大学に挑戦するレベルの生徒もあり、進学コース設置の効果が現れつつある。

近年は看護学部・看護学校への進学も多く見られる。理学療法を専攻するものもあり、医療福祉系に伸びがみられるので、推薦制度も活用しながら今後も拡大を図りたい。一般入試で立教大学・青山学院大学に合格者があり、また明治大学にスポーツ推薦（ゴルフ）で進学があった。

## 創立130周年記念事業

記念事業としては2016年度に創立130周年記念誌を発刊したが、2017年度に実施した中大規模の施設整備拡充は、記念事業として明確に位置づけたわけではないが、創立130周年の年に実施した事業として意義深いものであった。

大型倉庫棟は床面積247㎡で、耐火書庫を備えた大規模なものである。2020東京オリンピックを控えた建築費高騰などの動向をみながら、長期使用に耐える施設として（株）総設計に設計を依頼し、浅岡建設（株）により建築がなされ3月28日に竣工した。総工費約5,000万円。

第1・第2コンピュータ室は、当初それぞれ旧校舎からブラウン管時代の机・椅子を移して設備したが、A棟建設からも17年が経ち老朽化もみられたので更新することとした。薄型液晶ディスプレイにあわせてサイズを見直し通路幅を広くとる設計とし、カラフルでモダンな教室に生まれ変わった。

総合グラウンドでは、造成後約15年経ち、地面整備のためにスポーツトラクターを導入するとともに、収納用ガレージを構築した。また、野球部用設備としてコンプレッサー式ピッチングマシンやレーザー式スピードガンなど最新鋭機器を導入し、高度な練習を展開できるようにするなどの設備拡充を行った。

◇特記事項：芸能コース特別顧問 平尾昌晃先生逝去（7月）

## B. 部門ごとの評価（学校要覧に記載）

### 5. 学校関係者評価

学校運営会議開催（7月）。

保護者（5月）および生徒（2月～3月）にアンケートを実施した。

以上